

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度 病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

病害虫発生予察 注意報第3号

1 農作物名 普通期水稻

2 病害虫名 トビイロウンカ

3 発生状況及び注意報発令の根拠

- (1) 8月2～5日の巡回調査（第一世代幼虫期～第二世代幼虫期）では、発生ほ場率が53%（平年28%）と平年に比べて高かった（図1）。
- (2) 現在の発生密度は低いが、増殖率の高い短翅型雌成虫が認められ、今後、発生量が急増すると予測される。
- (3) 向こう3か月の天候予報では、九州南部の平均気温は高いと予想されており、トビイロウンカの増殖に好適な条件が見込まれる（鹿児島地方気象台 7月22日発表）。

4 防除の考え方

- (1) トビイロウンカに対する防除適期（粉剤・液剤・粒剤等による防除）
6月22日飛来虫：8月6～12日頃（第2世代幼虫）及び9月2～8日頃（第3世代幼虫）
7月6日飛来虫：8月18～24日頃（第2世代幼虫）

5 防除上注意すべき事項

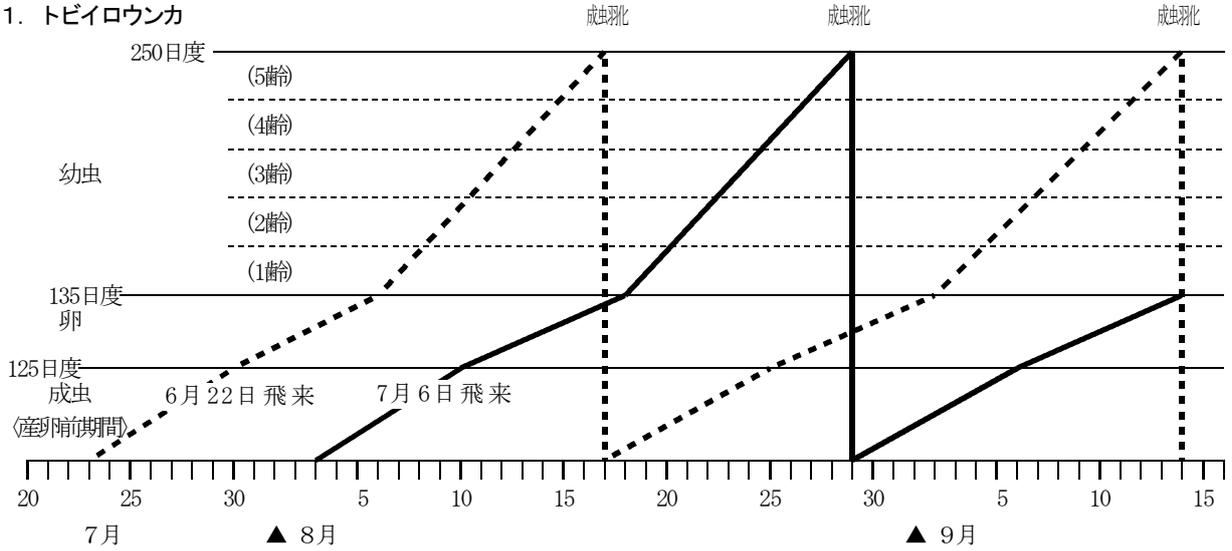
- (1) トビイロウンカは増殖率が年間1,000～1,500倍と非常に高く、8月下旬以降には高密度となり坪枯れ被害を生じる。ほ場内の分布にはムラがあるので、出来るだけほ場全体の発生状況を確認する。
- (2) 稲の株元に生息するので、粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分届くように散布する。
- (3) 薬剤散布に当たっては、農薬の使用基準を遵守し、薬剤の飛散に十分注意すること。

※予察灯等のデータは防除所ホームページ<http://www.jppn.ne.jp/kagoshima>に掲載中。

海外飛来性害虫の有効積算温度による発育経過予測図 (鹿児島地方気象台：鹿児島郡のデータを使用)

鹿児島県病害虫防除所 2010年8月6日 作成

1. トビイロウンカ



気温の低い地域では予測より2～4日程度遅くなる。

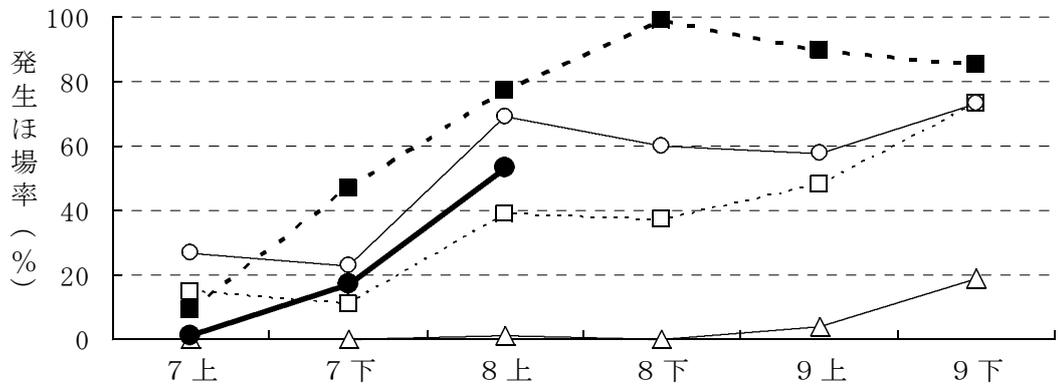


図1 トビイロウンカ発生ほ場率の年次比較

---□--- H18 —○— H19 —△— H20 -■- H21 ●— H22